



富山大学理学部後援会報

数学科

物理学科

化学科

生物学科

地球
科学科

生物圏
環境科学科

りっか

第17号 2022.3



後援会報の名称「りっか」とは…

「りっか」とは、雪の異称であり、漢字では六花と書きます。六角形の結晶の麗姿を花にたとえています。私たちの理学部章は雪の結晶がモチーフとなっています。全国でもまれな、6学科から構成されている理学部であることを象徴しています。

ごあいさつ

理学部後援会会長 成瀬 真

春暖の候、後援会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

今般、理学部会報「りっか第17号」を発行することができましたのも、ひとえに皆様の後援会活動へのご理解、ご支援の賜物と感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響は、依然として深刻な影響を及ぼしております。そのような状況の中、昨年東京オリンピック・パラリンピックが開催され、無観客ではありましたが、日本は数多くのメダルを獲得し、皆さまも大変感動されたのではないかと思います。また、この東京五輪がその時々状況に対し最適な方法で進められたように、学生の皆さまも、コロナ禍により学生生活が激変している中、状況を把握する力を養いながら、学業その他に挑み続けているのであらうと感じております。

新型コロナウイルスで感染力の強い変異種の出現により、予断を許さない状況が続きますが、皆さまのご要望を踏まえ後援会事業の充実を図り、より良い教育環境の整備に向け、学部長をはじめ大学関係者の皆さまと連携し支援していきたいと考えております。

会員の皆様におかれましては、今後とも理学部後援会の発展のため、一層のご協力ご支援を賜りますよう心からお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



保護者の皆さまへ

理学部長 若杉 達也

平素より理学部の教育に対して、ご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。令和3年度は、理学部から180名の卒業生を実社会や大学院へ送り出すことになりました。これも、保護者の皆様のご支援のおかげと深く感謝しております。一昨年度後半から続く新型コロナウイルス

の感染は、拡大と鎮静化を繰り返しており、長引くコロナ禍により、大きな影響を受けておられる方も多いと思います。コロナ禍の終息と平安な日常が戻ってくることを願ってやみません。富山大学も、昨年度に続き、コロナ禍の影響を受け、行事の中止や簡素化、多くの会議のオンライン化などが行われています。授業も、新型コロナの感染状況に応じてオンラインと対面を使い分けて、感染防止に十分配慮して行っています。本来の教育研究活動のレベルに完全に戻っているとは言えない状況ですが、オンラインでの教育や感染対策などについての経験が蓄積されてきたこともあり、昨年度よりも落ち着いて対処できていると思います。教育の効果や学生指導についても、改善が見られていますので、ご安心いただければと思います。

現在の社会を取り巻く状況は、新型コロナの感染拡大などのこれまでに経験したことのない事態によって大きく変化し、予測困難なものとなっています。そのような社会に出ていくうえで、学生諸君が自身の未来を切り拓いて活躍していくための能力を大学時代に身に付けていくことが重要となってきます。理学部では、現代の社会で活躍するための能力を培うために「グローバル化」、「地域貢献」、「理工系人材育成」といった取組みを進めるとともに、データサイエンス教育や異分野融合・新分野創出につながる教育などを新たに展開し、学生諸君が大きく変化する社会に自信をもって巣立っていきけるよう努めています。また、令和4年度から大学院が大きく改革され、理工融合の新しい修士課程のプログラムが発足し、社会で活躍するための教育を重視していきます。今後とも、保護者の皆様方との連携を密にして、教育の質を高めていけるよう、教員一同努力してまいりたいと考えていますので、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年度 キャンパススケジュール CAMPUS SCHEDULE

4	○ 入学式 ○ 新入生 オリエンテーション ◆ 新入生保護者懇談会 ○ 授業開始(前期)
5	
6	○ 第3年次編入学試験 ◆ 北陸地区 国立大学体育大会 ◆ 後援会理事会・総会
7	
8	○ 期末試験・集中講義 ◆ オープンキャンパス ○ 夏季休業開始 ○ 大学院入学試験
9	◆ サイエンス フェスティバル
10	○ 授業開始(後期) ◆ 開学記念日 ◆ 大学祭 ◆ 北陸三県大学 学生交歓芸術祭 ○ 総合型選抜 ◆ 就職・進学合同説明会
11	○ 特別選抜(学校推薦型 等)
12	○ 冬季休業開始
1	○ 授業再開 ○ 大学入学共通テスト
2	○ 期末試験・集中講義 ○ 卒業論文発表会 ○ 一般選抜(前期日程)
3	○ 一般選抜(後期日程) ○ 学位記授与式

重 金属に強いシダ植物「ヘビノネゴザ」を使って、植物の光合成における、カドミウムの耐性について研究しています。入学前から、重金属で汚染された土壌を植物を使ってきれいにする「ファイトレメディエーション」に興味があり、カドミウムに対するメカニズムが解明されれば、環境問題の解決につながると思い、この研究を選びました。4月からは、インテリアの接着剤を開発する企業への就職が決まっています。いろいろな分野の実験をさせてもらったことが、今後は製品開発の仕事に役立つと考えています。商品を取りあえず一つ世に出すのが、今の目標です。



やぶした こころ
数下 琴音さん
生物圏環境科学科4年生
(富山県出身)

幾 何学の分野で、曲線や曲面がどういった性質を持っているかということについて、研究しています。発表者が発表したことについて、どうしてこうなるのか自分で翻訳する作業に、一番苦勞しています。試行錯誤を繰り返した分、答えを導けた時には大きな達成感や、爽快感を感じます。春からは大学院に進学して研究を続けます。将来の夢は、数学をしっかり分かった上で教えられる教師になることです。富山大学では、多くの友人に出会うことができ、教員採用試験という目標に向けて、一緒に勉強したり、勉強会を開いたりしたことがかけがえのない経験になりました。



つのだ れん
角田 蓮さん
数学科4年生
(山梨県出身)

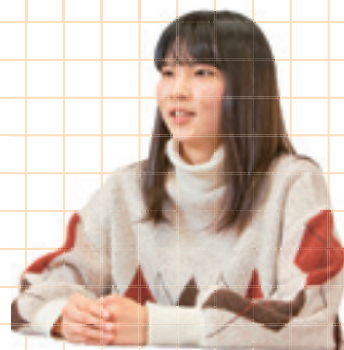
理学部 フィールド・オブ・ドリームズ

研究室やフィールドで、日々独創的な研究や、環境問題に関する研究、実験に励む理学部の学生たち。
彼らに、研究への思いや将来の夢について語ってもらいました。



ほりた けんじ
堀田 健司さん
化学科4年生 (富山県出身)

ク ロムの錯体の反応性の研究をしています。最初の頃はひたすら測定や分析を行いデータを比較しながら、成分を推測するのが大変でした。研究を続けるうちに、少しずつ成分が分かってきたことや、実験で色が変わって反応が目で見えて確認できることを、面白く感じるようになりました。富山大学では基礎講義を通じて、学びたかったことをしっかり学ぶことができ、充実した学生生活を送れました。昔から環境問題に興味があったので、卒業後は産業廃棄物処理の企業で、研究や分析をしていく予定です。大学で学んだことを生かし、環境問題の改善ができる研究者になりたいと思っています。



かど ふうか
角 風生花さん
物理学科4年生 (富山県出身)

魚 のゼブラフィッシュを使って、生体物質「PACAP (ペイキャップ)」と、ストレスとの関係について研究をしています。実験前のゼブラフィッシュにストレスをかけないようにすることと、個体差によって結果にバラつきが出る中で、有意差を見付けることが大変です。反対に、仮説通りの結果が出た時はとてもうれしいです。この春からは大学院で今の研究を続けます。PACAPはストレスに関わる病気の治療薬開発に役立つ可能性もあり、価値ある研究だと感じています。将来は、生物に関して深い知識を持つ、高校の生物教師になりたいと思っています。



にしべ たいき
西部 太喜さん
生物学科4年生 (岐阜県出身)

機 械学習を用いて、縦と横から得られる二次元の実験の画像から、物理モデルを特定する研究をしています。IT系企業への就職活動がきっかけで、「プログラムを自分で作ってみたい」と思うようになり、この研究室を選びました。最初はエラー文の解消が大変でしたが、だんだんとプログラムを作れるようになった時には、うれしかったです。機械ができることは機械にまかせて、人間にしかできないことを人間が集中してやれば、効率の良い環境ができると考えています。春からは、就職先のIT系企業で、世の中を変える影響力のあるシステムを作っていきたいと思っています。

大学での生活や 研究の体験で得たこと

理学部では、様々な演習や実験、研究が行われています。それぞれの研究室やゼミで、さまざまな発見や、アクシデントに出会いながらも、充実した研究ライフを送っている学生たち。

数学専攻・化学専攻・物理学専攻の皆さんに、特に印象に残った体験や、日々の研究を通して身についたことについてお話を聞きました。



——研究内容について教えてください。

松岡 物理の解析力学と関連する偏微分方程式である、「ハミルトン・ヤコビ方程式」の解の性質を研究しています。初期値が微分不可能な点を持つとき、それに応じて解がどのような挙動を示すかについて興味があり、この研究を選びました。

東 弾性力学から出てくる問題である「マシューの不等式」について研究しています。マシューの級数の評価を改良しようという試みから、この研究テーマを選びました。

——研究で大変だったこと、うれしかったことは？

松岡 1年生の時から数学の勉強をしているんですが、直感的に「当たり前だ」と感じることで、基礎的な理論を理解できていないと、証明できないということを実感しました。反対に、当たり前のことを、ちゃんとある程度議論できるようになった時はうれしかったですね。時間はかかりますが、地道な基礎研究を重ねることが大切だと分かりました。

東 ゼミは1週間ごとに1時間ですが、そのために毎回1週間という時間をかけた準備が必要です。いろいろな論文を読んで、論理に不備がないように準備していくのは大変な時もあります。発表した時に、内容について先生に何も指摘されない時があるのですが、そういう時は、「準備がうま



大学院 理工学教育部 修士課程
数学専攻2年生

あすま ひろ き
東 大樹さん

くいった」ということなので、とてもうれしいです。

——この研究をしようと思ったきっかけと、富山大学の印象は？

松岡 高校生の頃は工学系の学問に興味があったのですが、受験のために数学を勉強していくうちに、数学の面白さに気付いて好きになりました。数学科に進んでから、解析分野の研究が楽しくて、この分野を研究している先生の下で学べたことが大きな収穫になりました。

東 昔から数学が好きで、数学科を希望しました。富山大学では、しっかり数学を学ぶ時間が取れること、先生が理解しやすいように話して下さることもあり、勉強しやすい環境だと感じています。

——これからの進路と将来の夢は？

松岡 IT系の企業にSEとして就職が決まっています。プログラミングは初心者ですが、「数学を使う場面があったらいいな」と、楽しみにしています。

東 将来は高校の数学教師になりたいと思っています。生徒が分からないところをまず理解して、どうやったらできるようになるか、考えてあげられる先生を目指しています。



大学院 理工学教育部 修士課程
数学専攻2年生

まつ おか こう た る う
松岡 広太郎さん

——研究内容について教えてください。

今井 進化分子工学という手法を用いて、遺伝子の一種であるRNAの進化について研究しています。オリジナルのRNAに部分的に変異を加えて、より化学反応を触媒しやすくなるRNAを手に入れるため、進化させていく研究です。

今村 固体薄膜化された多感芳香族化合物が光を吸収して、励起二量体（エキシマー）をどのように形成するかを研究しています。薄膜に対して、超高速発光分光測定を行い、エキシマーの形成速度を調べるという方法を用いています。

——研究で大変だったこと、うれしかったことは？

今井 RNAがどういう風に進化したかを調べるために、特性を一つひとつ分類して、要素ごとに分けて、「どの部分が良くなったから進化が進んだのか」ということを調べる必要があります。それを見付けるための、調べ方や実験方法を考えるのが難しいです。反対に、RNAを進化させていく中で、進化前より性能が上がっていることが実感できた時は、とてもうれしいです。



大学院 理工学教育部 修士課程
化学専攻1年生
いまむら こうき
今村 虹輝さん

今村 大変だったことは、測定装置を開発したことです。研究室に配属されて、すぐに「フェムト秒アップコンバージョン測定装置」の開発に取り組みました。そこでは、1マイクロメートルのずれも許

されない光軸調整と、測定プログラムのソフトウェア開発をしました。短期集中して物事に取り組むことが苦手だったので、苦勞しました。

その分、1年半かけて研究の結論が出た時は、「結果が出た！」と感動しました。



大学院 理工学教育部 修士課程
化学専攻1年生
いま い ともえ
今井 巴絵さん

——研究室の雰囲気は？

今井 研究でもプライベートでも、仲がいい研究室です。アドバイスをもらったり、協力しあったりして研究を進めています。

今村 ほかの研究室にくらべると人数が少ないですが、その分仲がいいと思います。時には、研究に対して真剣に議論することもあり、メリハリがある研究室だと思います。

——これからの進路と将来の夢は？

今井 「ものづくりを通して生活を豊かにしたい」と思い、ものづくり分野の企業への就職を考えています。それには、研究で培ってきた“実験過程を自分で考える力”が役立つと思っています。

今村 現在就職活動準備中で、化学業界の研究開発職の仕事に就きたいと考えています。将来的には、世界に驚かされるようなものを開発できるような人材になりたいと思っています。

——研究内容について教えてください。

山下 レーザー物理学研究室に所属しており、岐阜県神岡町にある大型低温重力波望遠鏡「KAGRA」プロジェクトに、富山大学として参加しています。重力波を検出するに当たって、必要になるレーザーのパワーを制御するシステムを作っています。

中野 富山大学総合研究棟で、低温の分子ビームを使った酸化鉛分子の分光実験を研究しています。生成した酸化鉛分子にレーザーを当てて発光スペクトルを観測、電子遷移を見ることによって、電子状態を調べています。

——研究で大変だったこと、うれしかったことは？

山下 重力波は小さな信号なので、観測は難しいことが多いです。かなり極限的な実験をしているので、外の光や地面の揺れなどのノイズにも細かく気を配って実験しています。仮説通りにはなかなかうまくいかないのですが、なぜうまくいかないかをとことん考え、自分で解決策を出して、再実験してうまくいった時は、うれしいです。



大学院 理工学教育部 修士課程
物理学専攻1年生
なか の あい
中野 愛さん

中野 たくさんスペクトルが得られるので、どの電子状態に遷移したのか見つけ出すまでが大変です。千本近くスペクトルを取るまで、実験を繰り返してデータを集めています。

その分、1回の実験でたくさんスペクトルが取得できた時はうれしいですね。

——この研究をしようと思ったきっかけと、富山大学の印象は？

山下 入学した時から、富山大学は「KAGRA」に関係していたので、「せっかく物理学科に入ったからには、大型プロジェクトに参加したい！」と思い、この研究室を選びました。

中野 現在使っている実験装置は、歴代の先輩たちが設計して、改良を重ねたもので、富山大学にしかありません。この実験装置を使った実験をしてみたいと思って、研究室を選びました。富山大学は実験スペースも広いし、いい装置があるので、研究しやすい環境だと実感しています。

——これからの進路と将来の夢は？

山下 エネルギー関係に興味があって、電力ガス業界に就職が決まりました。カーボンニュートラルや再生可能エネルギー、水素ガスなどいろいろな可能性の実現に力を尽くしたいと考えています。

中野 実験装置を動かすための簡単なプログラムを使ったシステムを駆使した実験が面白くて、ソフトウェア部門、設計などの仕事をしてみたいと考えています。



大学院 理工学教育部 修士課程
物理学専攻2年生
やま した かん た
山下 堪太さん

File #025 ▶

山下 堪太（やました かんた）
富山大学大学院理工学教育部
修士課程物理学専攻2年生
出身地：富山県
趣味：オカルト、登山



アインシュタインの宿題に挑む！

2016年、アメリカとイタリアの研究者らが重力波の観測により連星ブラックホールの合体を精密にとらえた。重力波には、宇宙の謎に迫る新たな「目」の役割を期待されている。山下さんは日本での重力波の観測に向けた装置の開発に携わっている。

■ 物理学からみた重力波観測の意味

かのアインシュタインが提唱した「一般相対性理論」は、宇宙や天体など大きなスケールの世界での現象を説明するのに欠かせない。この理論を検証するためには、重力波を精度よく観測することが重要である。重力波を用いることで、これまで観測できなかった遠くの宇宙の様子が見えたり、新たな仮説が生まれたりするかもしれない。その意味でも重力波研究は、物理学の発展に貢献する可能性がある。

■ ところで重力波って？

重力波とは、時空のゆがみが波のように伝わっていく現象である。しかしこの波はとても小さく、例えるなら地球と太陽の距離に対して水素原子一つ分の変化に過ぎない。そのような重力波を観測するため考えられたのが、重力波望遠鏡だ。山下さんは、岐阜県飛騨市の旧神岡鉱山に建設された大型低温重力波望遠鏡「KAGRA（かぐら）」による、重力波観測を目指す一人だ。

■ 大型低温重力波望遠鏡KAGRA

重力波をとらえるには、マイケルソン干渉計の仕組みを使う。レーザー光源から出た光がビームスプリッターで二方向に分けられる。（緑色とオレンジ色の矢印）

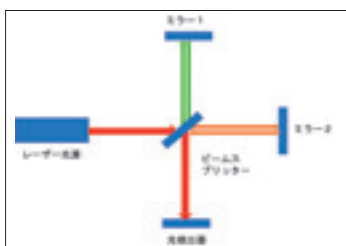


図1：マイケルソン干渉計の仕組み

それぞれがミラー1と2で反射し、戻ってきた光は光検出器に入っていく。緑色の部分とオレンジ色の部分（腕）が同じ長さならば、二つの光は打ち消し合うはずだ。重力波によって長さに違いが生じると、その差は「干渉縞」として観測される。KAGRAはそれぞれの「腕」の長さが3kmもある巨大な望遠鏡である。

■ こんな研究をしています！

精密な測定には、環境から生じる余分な信号（ノイズ）を軽減させることが欠かせない。ノイズは、地面の振動や温度変化など多種多様だが、レーザーの強さのブレによるノイズについて研究しているのが、山下さんの所属するグループだ。

レーザー光はKAGRA全体を通っているのでもKAGRAの機器に改良が加わるたび、調整が必要になる。現地で見つかった問題点を大学に持ち帰り、実験などでその原因を探る。問題点を解決できたら、再び現地の装置に反映する。

■ 大変なこと&楽しいこと



図2：KAGRAの心臓部であるPSLルーム（右側の円筒部から奥にレーザーが放出される）



図3：KAGRAで作業する様子

KAGRAでの研究は、坑内で作業できる時間が限られているうえ、多くの研究者が共同で作業している。そのため大学内で行う研究よりもしっかり実験計画を立てる必要がある。さまざまな装置を置くスペースに頭を悩ませることもたびたびだ。

山下さんは実験で出た結果や理論を基に、自分なりにまとめた考えを指導教員の森脇喜紀先生と共有している。工夫して取ったデータが、予想される結論と一致したときや、実験が思い通りにできたとわかった時の喜びが研究のモチベーションを支えているという。

レポート

—理学部の若き研究者たちの最新情報を公開—

その内容を分かりやすく紹介した記事を掲載します。



インタビュー

天谷 友亮／伊藤 柊哉／佐野 遥太

辻 泰成

File #026 ▶

辻 泰成 (つじ たいせい)

富山大学大学院理工学教育部

修士課程地球科学専攻1年生

出身地：岐阜県

趣味：登山、自転車ツーリング



雲への興味から気象研究へ

辻さんは、小学生の頃から、綺麗で不思議な形をしている雲に漠然とした興味をもっていた。そして中学生の時に理科で気象について学んだことが決め手となり、大学では気象学を深く学べる地球科学科への進学を決めた。研究室配属の際には、迷わず、安永数明教授の研究室を選んだ。今では、希望通り雨に関する研究をしている。

■ 雨を高精度に予測する

普段、何気なく見ている天気予報。中でも、雨は、私たちの日常生活に大きな影響を与える。現在、その雨に関する情報をリアルタイムで取得するために、気象レーダーが使われている。気象レーダーは、雨雲に向かって電波を送信し、反射して戻ってきた電波の強さから雨の強さを推定する。ただし、その推定には誤差が含まれている。降ってくる雨粒の大きさや数に変化するためだ。

一口に雨と言っても、夕立のように激しく降る雨（対流性降雨）もあれば、長時間シトシト降る雨（層状性降雨）もある。こうした違いが、地上に降ってくる雨粒の大きさや数に変化を生じさせ、降水量を推定する際の誤差要因の1つとなる。そのため、どのような雨粒が降っているのか、降水タイプを見極める研究が世界各地で進められている。

近年の雨粒観測では、雨粒の数を大きさごとにカウントする測器（ディストロメータ）が使われている。

辻さんは、その中でも、光学式センサーを利用したディストロメータ（LPM：Laser Precipitation Monitor）を使って雨粒の大きさごとの数を観測している。LPMは、レーザーをシート状に出力し、そこを雨粒が通過した際のレーザー光の変化から、大きさや数を1分ごとに観測する仕組みだ。

近年の先行研究では、同じ降水タイプでも、海上か陸上といった環境の違いによっても変化することが報告されており、雨粒の大きさと数は、様々な要因によって複雑に変化することが指摘されている。しかしこれらの知見は、熱帯など比較的暖かい地域の観測に基づいて整理されているものがほとんどだ。

辻さんが目指すのは、暖気と寒気の境目に位置する中緯度の地域で、降ってくる雨粒の特徴を降水タイプに帰属させながら整理することだ。最近の解析結果から、中緯度で観測された雨粒のデータの中に、熱帯地域ではみられない傾向が見えてきた。それが、どのような降水タイプによってもたらされているのかを明らかにすることで、最終的にはより正確な降水量の予測につなげようとしている。

■ 突き詰めた先に新しい発見が

どんな研究であれ、突き詰めようとすると、そのテーマに関連した多くの知識や技術を勉強しなければ前に進めなくなる。その勉強の地道さや自分の無知さに苦しくなる時はたくさんあるけど、「好きなテーマ」を究めるための勉強は、高校まででは味わえない。「大学生になるまで勉強が楽しいと思ったことは一度もなかったが、自分にとってワクワクするような研究ができていのが本当に楽しい。満足できるまで好きな気象を突き詰めたい。」と辻さんは語る。



雨粒の大きさごとの数を観測するLPM



これらの研究紹介記事は以下の授業で作成したものです。
「科学コミュニケーションII」
主 講 師：元村有希子(毎日新聞論説委員)
担当教員：川部達哉(数学科)、島田 互(生物圏環境科学科)

令和3年度 理学部後援会予算

収入の部

費目	金額(円)	摘要
繰越金	926,446	
後援会費	3,290,000	・R3入学生入会予想率(75%) ・過年度入学生入会者
預金利息	16	
合計	4,216,462	

支出の部

費目	金額(円)	摘要
事業費	3,036,000	保護者への案内・通信 150,000円 学習・実験等設備充実 2,250,000円 TOEIC試験受験支援 60,000円 学生表彰 156,000円 理学祭支援 65,000円 印刷費(会報) 350,000円 サイエンスメディアーター記念品代 5,000円
事務費	50,000	事務用消耗品類 20,000円 振込手数料 30,000円
人件費	180,000	事務員手当
予備費	950,462	
合計	4,216,462	

令和3年度 理学部後援会予算収支中間決算報告

収入の部

(R3.4.1～R4.1.31)

費目	金額(円)	摘要
繰越金	926,446	
後援会費	3,400,000	R3入学生他
預金利息	10	
合計	4,326,456	

支出の部

費目	金額(円)	摘要
事業費	2,408,568	保護者への案内・通信 87,998円 学習・実験等設備充実 2,250,000円 学生表彰 61,000円 理学祭支援 9,570円
事務費	32,789	事務用消耗品類 1,390円 振込手数料 31,399円
人件費	113,950	事務員手当
予備費	1,771,149	次年度繰越金
合計	4,326,456	

◆理学部後援会への入会のお願について

理学部後援会は、保護者と理学部との連絡を密にし、「学生の教育活動及び就職活動等の支援」を目的に設立され、多くの支援を行ってきました。

保護者の皆様におかれましては、後援会設置の趣旨をご理解をいただき、是非ともご入会いただきますようお願いいたします。

会費：学部学生(20,000円)、編入学生(10,000円)(いずれも入会時のみ。)

令和3年度 理学部後援会役員

会長	成瀬 真(4年生理事兼任)
副会長	高沼 美昭(3年生理事兼任)
副会長	青木 一真(教員理事兼任：生物圏環境科学科教授)
理事	若杉 達也(理学部長)
理事	保護者 各学年2名(計8名)
理事	教員 各学科1名(計6名)
理事	賛助会員 2名
監事	岡本 達也(正会員)
監事	上田 肇一(数学科教授)

令和3年度卒業予定者の進学・求職・就職状況

	男	女	合計
① 卒業予定者数	125	55	180
② ①のうち進学者数	60	15	75
③ 進学率【②/①(%)】	48.0%	27.3%	41.7%
④ ①のうち求職者数	53	35	88
⑤ ④のうち就職内定者数	44	34	78
⑤のうち富山県内	16	16	32
⑤のうち富山県外	28	18	46
⑥ 内定率【⑤/④(%)】	83.0%	97.1%	88.6%

令和4年2月末日時点調査

令和3年度理学部学生表彰

表彰の基準は、「特に成績の優れた者」です。

学長表彰者として2名、学部長表彰者として15名が選ばれています。

◇学長表彰

化学科

堀田 健司

生物学科

清水 京杏

◇学部長表彰

数学科

角田 蓮
清雄 風香
虎間 友里香

物理学科

安田 新地
小林 大地
立松 希望

化学科

三浦 弘翼
宮崎 優大
野口 唱

生物学科

桶屋 美帆
富樫 彩音
岡田 幸笑

生物圏環境科学科

深山 美里
中野 萌笑
中屋 舞美

富山大学理学部後援会

〒930-8555 富山市五福3190
TEL 076-411-4803 FAX 076-445-6549
HP <http://www3.u-toyama.ac.jp/safs/>
e-mail safs@sci.u-toyama.ac.jp

編集後記

この編集後記は、卒論・修論発表会の時期(2月中旬)に書いています。さらなる感染拡大により、今年も普段通りの発表会とはいきませんでした。私の所属する学科は、何とか対面で発表してもらうことが出来、ホッとしています。ただし、都会の大学ほどではありませんが、今年の卒業生は、大学生活の半分以上の期間、何らかの影響を受けたと思います。今後どのような影響が出てくるか、心配するのは私だけでしょうか。最後に、この春の入学生から生物圏環境科学科は、物理学・化学・生物学・地学分野の環境科学を学び研究できる「自然環境科学科」に生まれ変わります。新たな時代に活躍できる人材を教育していきますので、今後ともご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。(理学部広報委員会委員長・青木一真)

